

24 本蓮寺鰐口 (ホンレンジワニグチ)



指定 平成元年4月1日 町指定有形一考古資料
所在地 鹿児島県屋久島町楠川
管理者 宗教法人本蓮寺

鰐口は、神社、仏閣の打楽器の一種で、青銅で作られたものが多く、円形、偏平で中空体のものです。下方に細長い口があり、口の形が鰐(魚類サメ科)の口に似ていることから鰐口という名前がついています。ふちに二個の突起(目)と、二個あるいは三個の釣手(耳)があり、神社、仏閣軒にかけられます。参拝者は、布で編んだ綱を振り、鰐口中央の撞座つきざに綱を打ちつけて、鰐口を鳴らします。

本蓮寺本堂の軒下に、やはり青銅製の鰐口が吊るされています。内円の紋様帯は、蓮の花の模様と波の模様がつけられています。外円銘文帯の左右にあり、右に「楠川村」、左に「寛政二歳」と針書きされています。寛政二年(1790)に楠川村が本蓮寺に奉納したのですが、どのような理由によるものかは不明です。現在、屋久島で江戸時代の鱗口は、ここ本蓮寺にしか残っていません。

銘文は、奉納の趣旨や奉納者、年月日などが記されこの銘文が重要な資料となります。本蓮寺鰐口は、銘文を有することからも、また金工品としても貴重な文化財といえます。